

倭名語
八丈傳
四

^ 13
3701
4



春水作
國芳画

文溪堂



加初子

四編



春水作
國芳画

文溪堂
梓



門へ13
號3701
卷 4





著水佐

加永後
心大傳

四編下

四編上



國芳畫
春水作

加永
大傳



田端下



嘉永二年月新板

田端上





假名讀八犬傳四編序

勸善懲惡の千店ふ仁義八行の切賣ハ嘘八百此正札
附めく他ふ掛直ハなめりうらまごころ見ぬ作者乃
新廓看官ごこの以具負と原傳の光り成笠又著と
身のりどあろぬ向ふ見を暗夜の鑊炮當もあくむせうに
書く申れ春その新版の初編うう二編三編おひりく小
綴り合せとくまはうきこの今まご後を次輯ハ鳥許ハ衣四編
さうまろ是由身すだと夜をこめて机ハ筆成とろが鳴曉
此鐘用ハ記を

干時嘉永二年初春新刻

八犬傳日編



専ら

衛
渾
家



據
助

大塚
絶
庄
客



經營
百
事
費
精
神
玉
兔
交
時
當
得
意

南
北
奔
馳
運
未
新
恰
如
枯
木
再
逢
春

犬
川
衛
則
任



再出
犬塚信乃

成孝

傳四編



再出
濱路

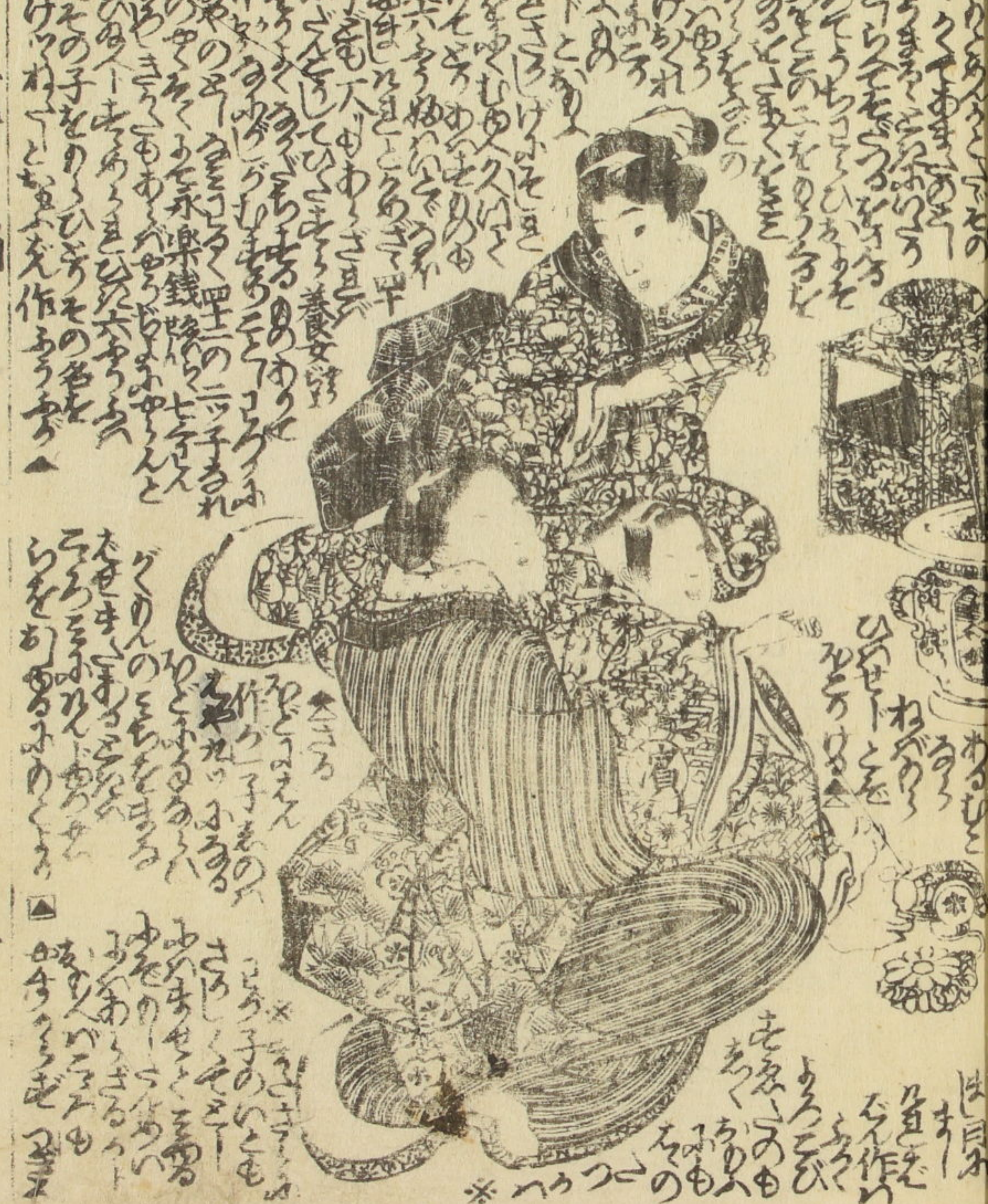
傳四編

ついでにまた
のりつけん
ことろを
まじりし
春王
のりつけん
ことろを
まじりし
春王
のりつけん
ことろを
まじりし
春王



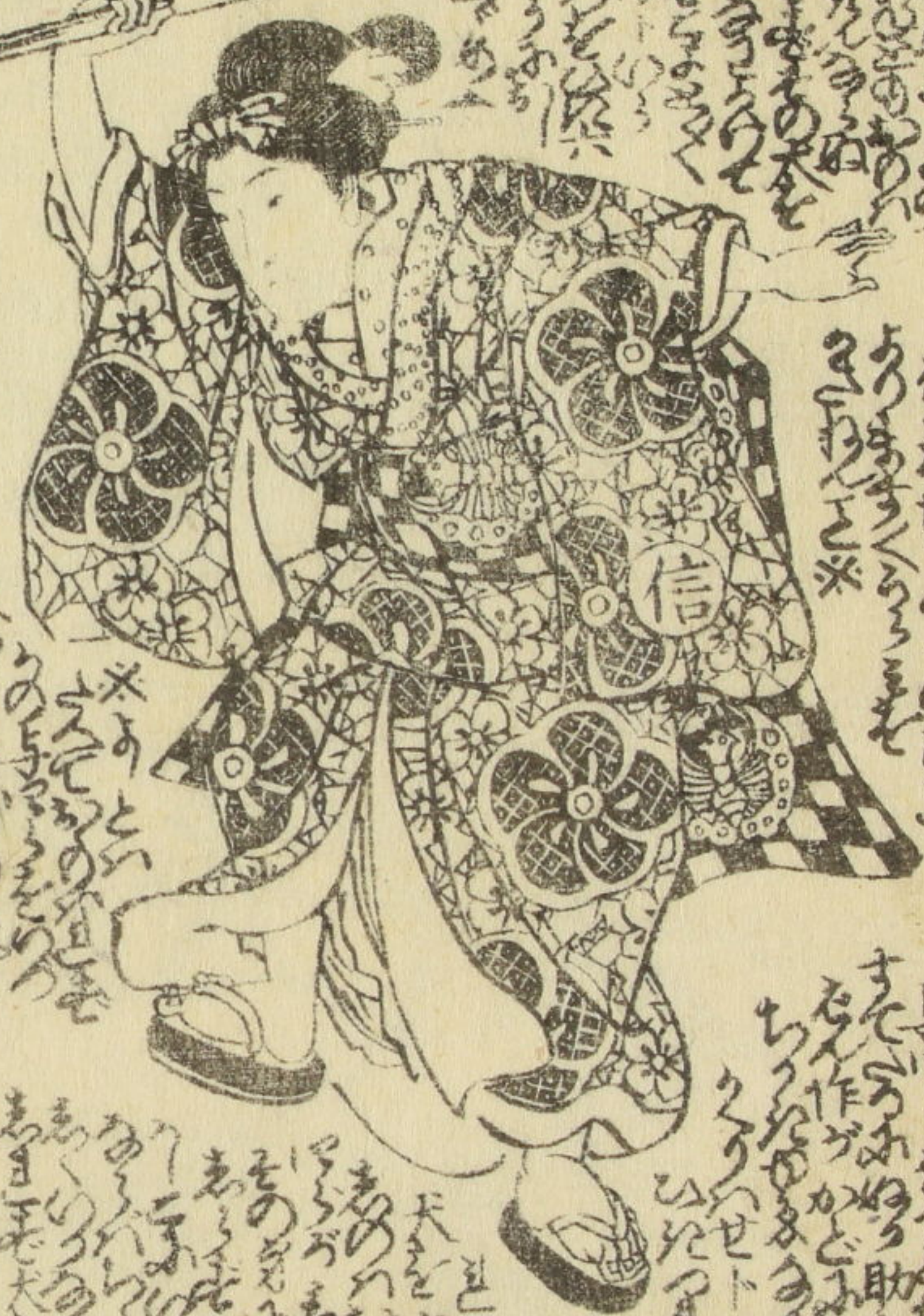
まじりし
のりつけん
ことろを
まじりし
春王
のりつけん
ことろを
まじりし
春王
のりつけん
ことろを
まじりし
春王

ついでにまた
のりつけん
ことろを
まじりし
春王
のりつけん
ことろを
まじりし
春王
のりつけん
ことろを
まじりし
春王



まじりし
のりつけん
ことろを
まじりし
春王
のりつけん
ことろを
まじりし
春王
のりつけん
ことろを
まじりし
春王

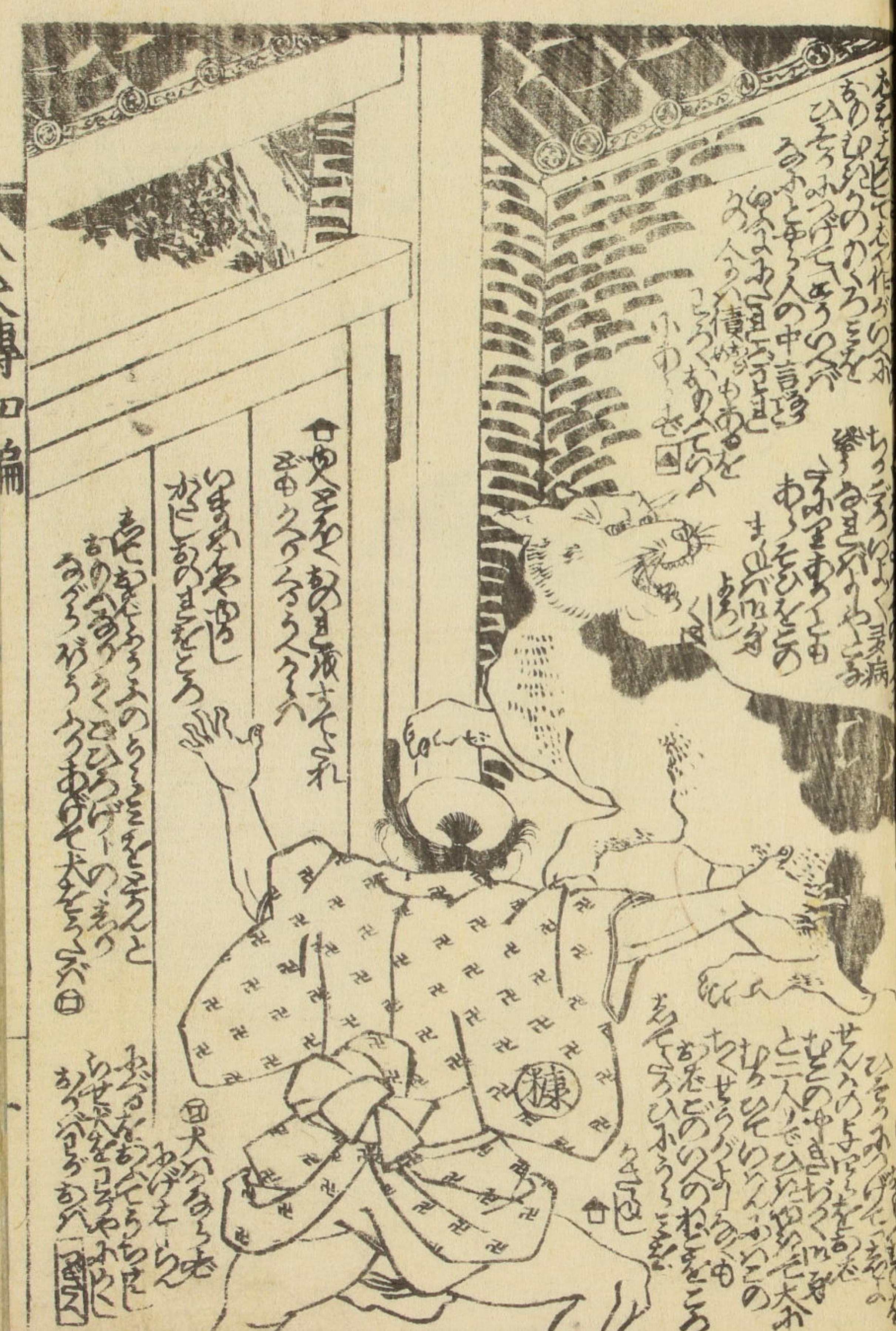
この世にまはるる犬のしるしは...
そのしるしは...
あつた...
あつた...
あつた...



あつた...
あつた...
あつた...
あつた...
あつた...

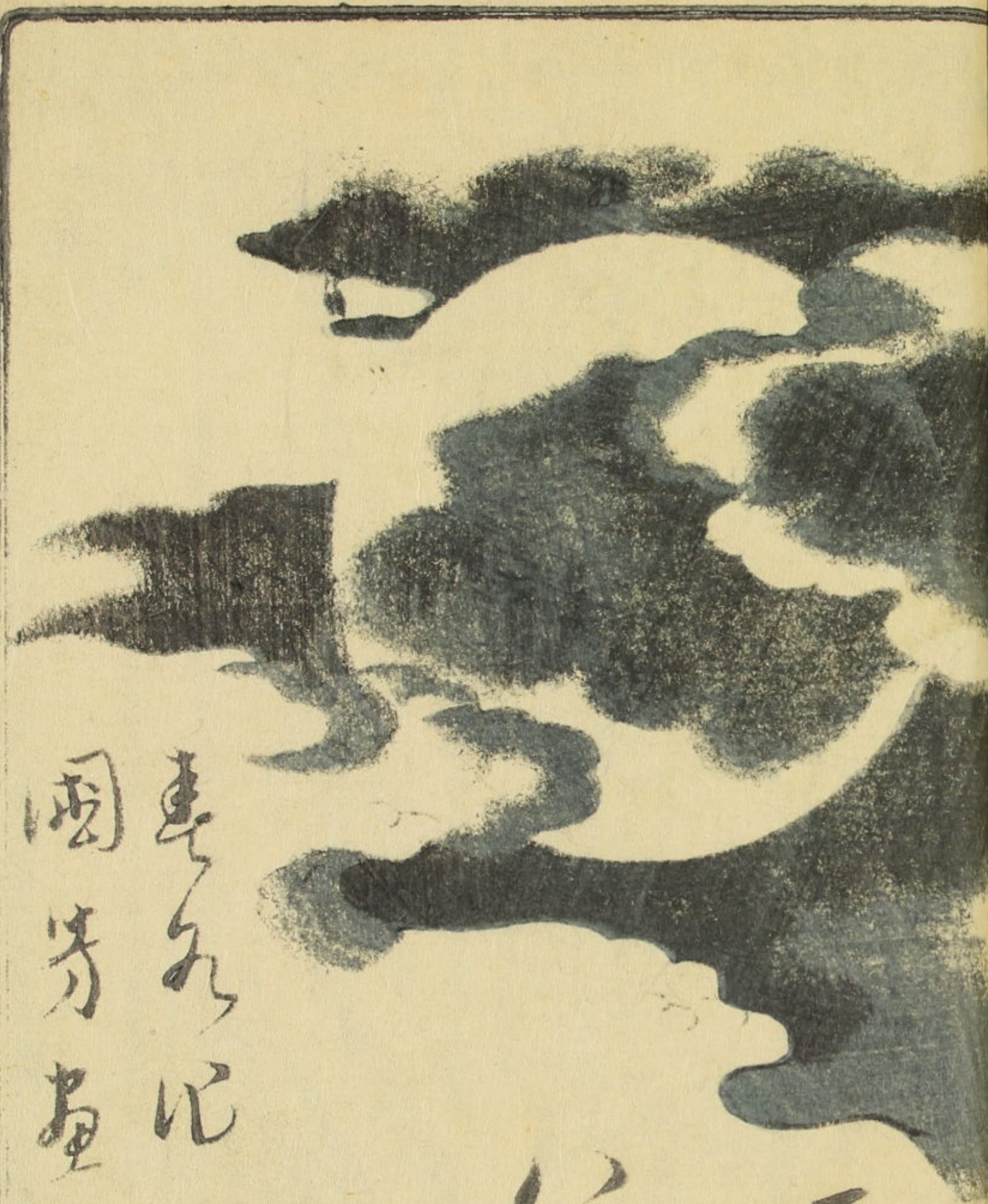
あつた...
あつた...
あつた...
あつた...
あつた...

あつた...
あつた...
あつた...
あつた...
あつた...



あつた...
あつた...
あつた...
あつた...
あつた...

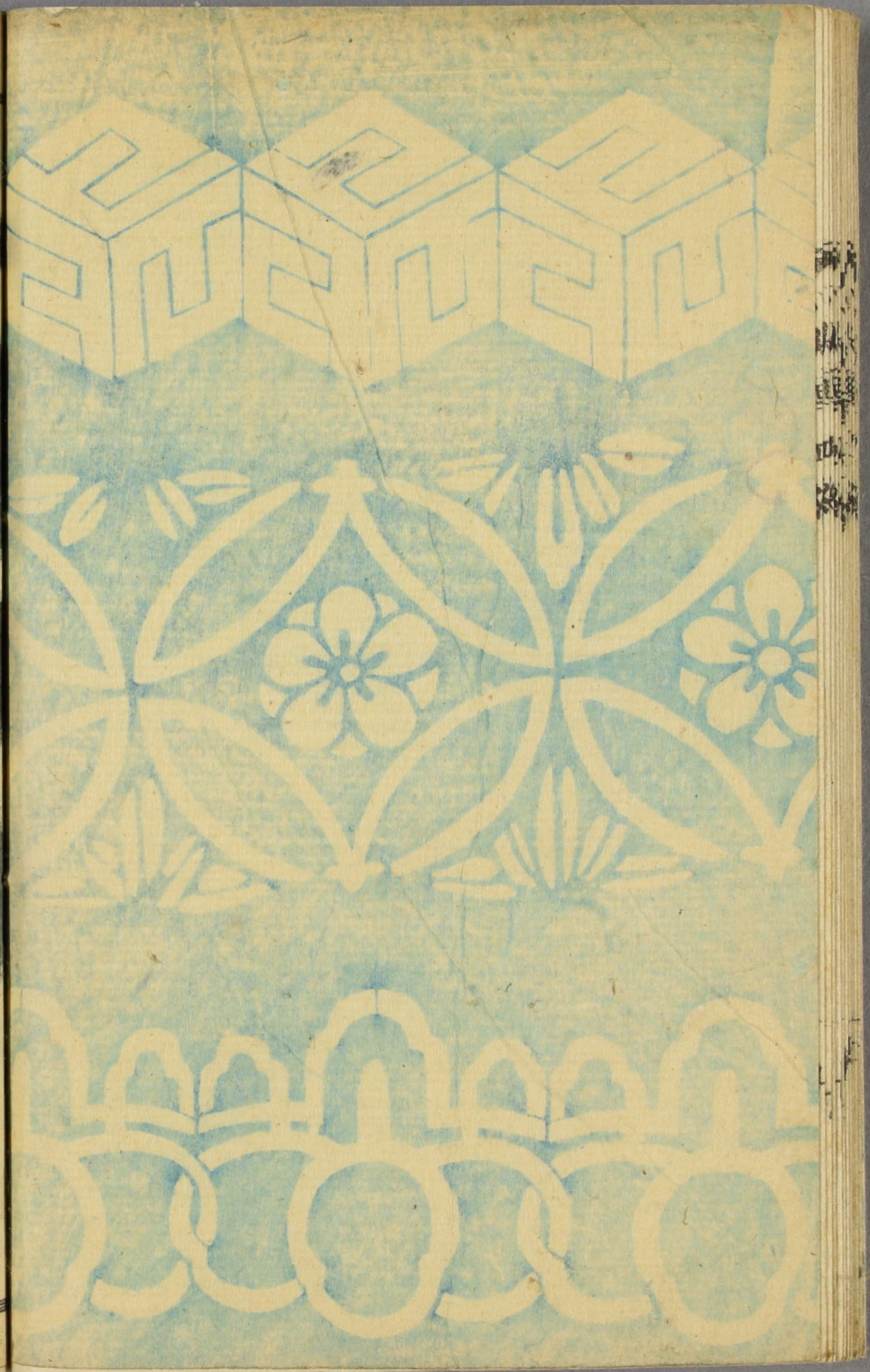
あつた...
あつた...
あつた...
あつた...
あつた...

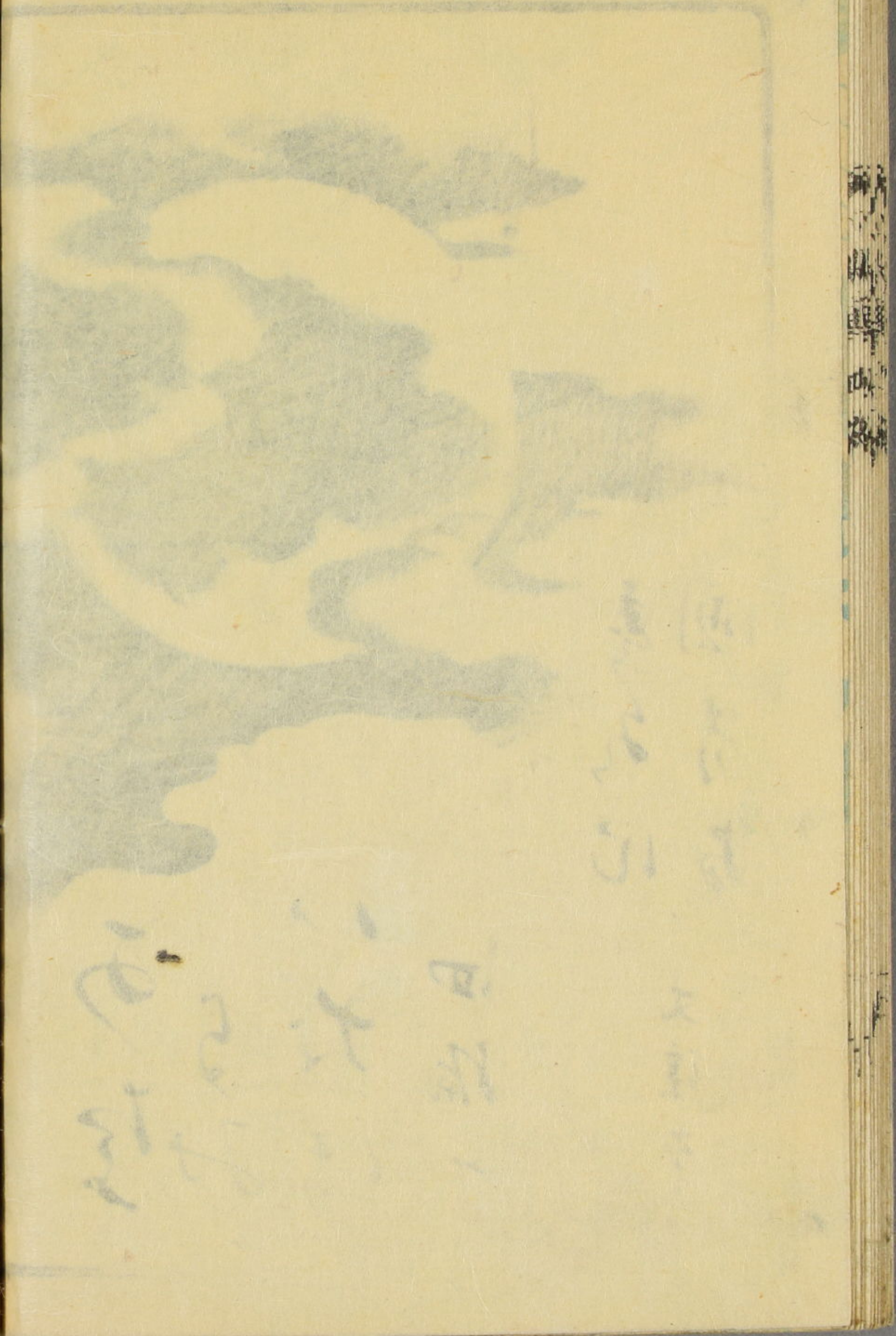
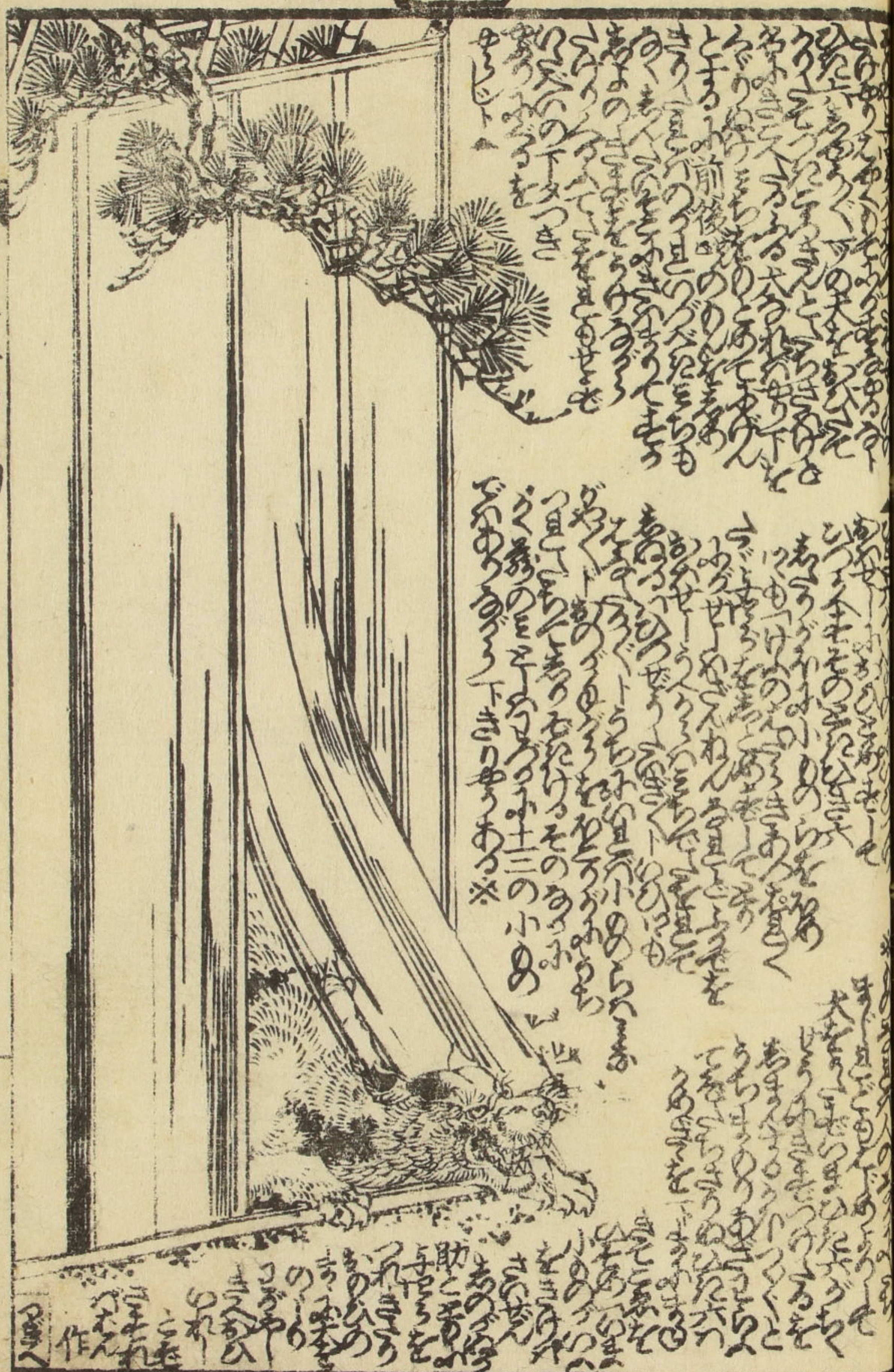


東の比
西の巻

文壇

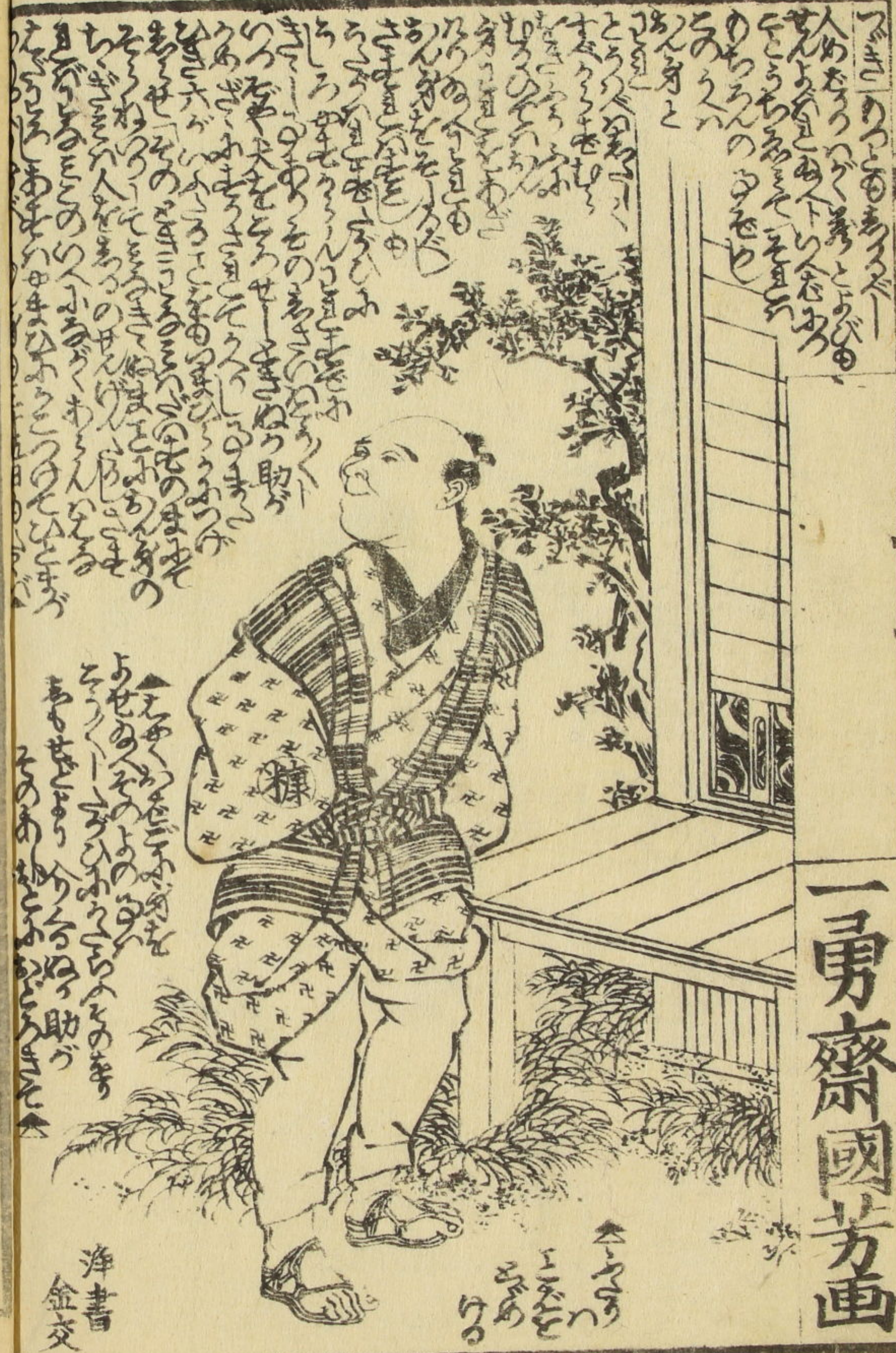
あま
とみ
い
大
橋
四
下





一勇齋國芳画

一勇齋國芳画



志ぬひ禪

五拾四編ヨ柳亭種彦作
六十編マテ一惠齋芳幾画

兩面織花田物語

初編ヨリ同
五編迄同
近刻

重作

假名讀八大傳

三十一編ヨ
假名垣魯文録
三十五編マ
朝霞樓芳幾画

古今 似顏大全

故豊國公羽筆
大錦百三番續

太平記英勇傳

中錦山々亭有人記
百番續惠齋芳幾画

洋書
金交

Handwritten text on the left page, including the characters "10" and "2" written vertically.



